広島県内のツメレンゲ

榎　本　克　彦

ツメレンゲ *Orostachys japonicus* (Max) の国内の分布は，新潟県中魚沼郡津南町外丸石坂部落が最北限地であり，南限は鹿児島県肝属郡佐多町佐多岬である。この圏内に点々と自生地があり，葉長・葉巾・葉厚などの相異，葉色，帯粉の有無，花の葯色の変化や越冬芽をつくるタイプ，つくらぬタイプ，子吹きの相異など生活型の異なるツメレンゲが存在する。これらには，ヒロハツメレンゲ，ホソバツメレンゲ，ウスユキツメレンゲなど多くの学名や和名が与えられており，分類学上でも非常に混乱しているようである。

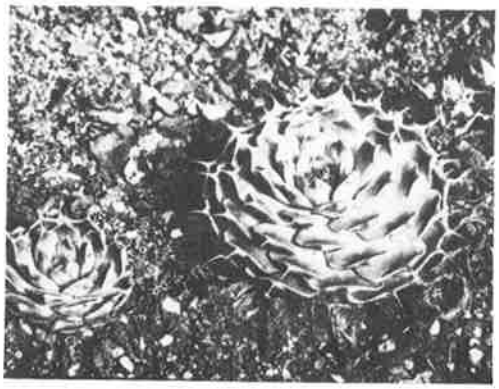
産地別に地点採集し，これを栽培してみることにより，混乱を整理できぬものかと数年前から始めている。県外においては61ヶ所を集め観察し終えたが，県内では自生地の確認にとどまっており，今後機会をみて集め，検討する予定である。

周知のとおり，ツメレンゲの基準標本産地は広島県福山市鞆町仙酔島である。1826年（文政9年）3月，オランダのカピター一行が江戸へ参府の途中，仙酔島沖に停泊した際，博物学者でもあり，蘭医でもあったPh・F・V・Siebold などと共に上陸したH. Buerger（1806～1853）によって採集されたものに学名が与えられたものである。今日でもライデン博物館，レニングラード自然博物館などで腊葉標本が残されているようである。153年余り前に採集された仙酔島のツメレンゲは現在でも健在であり，個体差の大きいツメレンゲだけに学識上貴重なものと言えよう。

現在自生を確認している県内の自生地は12地点である。

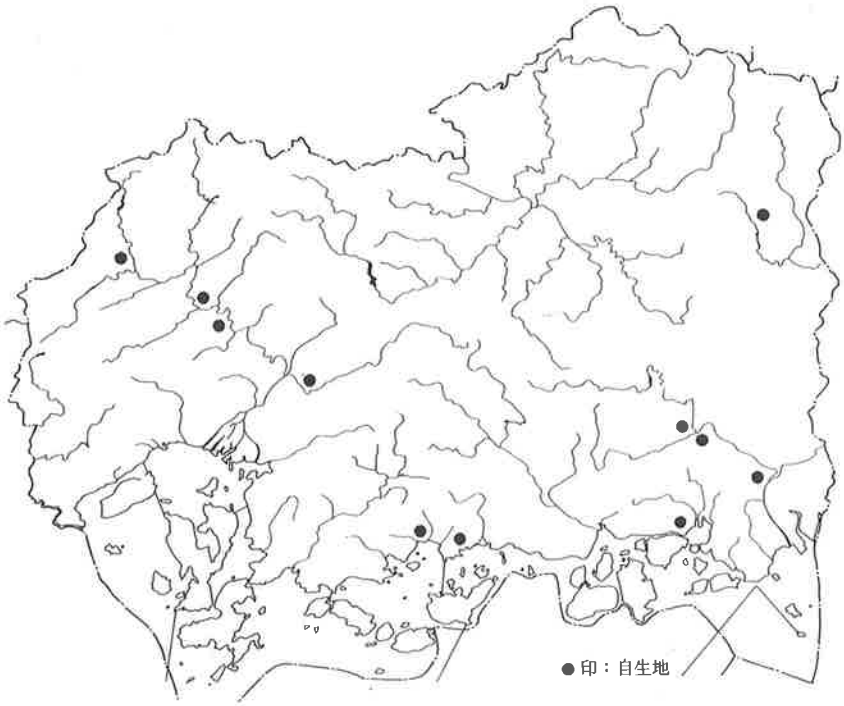
- 福山市鞆町仙酔島　（岩地）
- 府中市久佐　（岩地）
- 世羅郡甲山町八田原　（岩地）
- 世羅郡世羅町京丸　（石垣）
- 尾道市太田　（屋根）
- 竹原市上市　（頼惟清旧宅屋根及び岩地）
- 安芸郡安芸津町風早　（岩地・民家屋根）
- 広島市白木町白木山　（岩地）
- 広島市安佐町小浜　（岩地）
- 山県郡加計町向光石　（岩地）
- 山県郡戸河内町三段峡　（岩地）
- 比婆郡東城町帝釈峡　（岩地）

以上の他に，三原市仏通寺，呉市に近い野呂山弘法寺園地，佐伯郡佐伯町虫道，佐伯郡湯来町石ヶ谷などにも分布していることを聞くが，まだ確認していない。近県では，島根県出雲市立久恵峡，同県邑智郡石見町断魚溪，同県邑智郡瑞穂町三坂で確認している。山口県では萩市大井，阿武郡阿東町長門峡，阿武郡川上村（蓮溪）などに報告がある。なお，この他の地点を知っておられたら御教示願いたい。



ツメレンゲ（*Orostachys japonicus*）冬の形態

ツメレンゲ夏の形態



広島県内のツメレンゲの分布図

シダ植物の調査・導入状況

竹下　宏

本園では，開園前から，本邦産シダ植物の収集を行っていたが，開園後は，シダ展などを開催するため，さらに調査・収集を進めている。その結果，現在約230種を栽培・保存している。

ここでは，昭和51年から昭和54年3月までに収集した主なシダの調査・導入状況を報告する。

昭和51年9月13日～16日　高知県内

高知県立牧野植物園の指導を得て，安芸市名村川，室戸市下里，甲ノ浦，東洋町野根，高知市五台山の5カ所で，暖地性シダ60種を確認した。

主なシダ：　エダウチホングウシダ，スジヒトツバ（室戸市下里）

クサマルハチ（東洋町野根）現在，カンチクの下に自生しており，全貌はつかみにくいが，約200個体程度の自生があるとみられ，八束のクサマルハチ群落より大きい。

昭和52年6月30日　佐伯郡吉和村汐原

汐原では，ヤマドリゼンマイのみごとな群落を観察し，冠山中腹においては，ショウキランの自生を確認し，一部を標本とした。

主なシダ：ヤマソテツ，ヤマドリゼンマイ，リョウメンシダ

昭和52年7月11日　広島市安佐町宇賀峡

この調査は，シダ展のための調査及び標本収集を目的として，宇賀峡入口から高山への分岐点がある地点までの約3㎞の区間で，主に道路沿いに行った。

主なシダ：クジャクシダ，コバノイシカグマ，イノデモドキ，ホソバコケシノブ，キヨタキ